

**総評（コメント）（協働事業選考委員会土屋副委員長）**

6件の協働事業はどれもすばらしく、行政の大変な部分を市民団体が実施しているNPOらしい活動内容であった。

NPOと市の二者だけではなく、企業、大学などいろいろな人たちと取り組む協働に発展させていくとすばらしい。いろいろな話し合いをして協働事業に取り組んでいけばよい。協働事業は、その後どうするかが課題である。

どういうまちにしたいのか、協働事業を実施した結果、鎌倉がどのようなまちになるのか、団体、行政とも協働事業の先に何があるのかというイメージを持って協働事業に取り組んでほしい。

**閉会の挨拶（小磯市民活動部長）**

協働事業には、団体と市のコミュニケーションが最も重要であると思う。